

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
伊万里市	東山代地区(東山代干拓)	令和3年3月31日	

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	50.4ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕地面積の合計	50.4ha
③地区内における70歳以上の農業者の耕地面積の合計	32.3ha
i うち後継者未定の農業者の耕地面積の合計	15.3ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	ha
④地区内において、今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	37.9ha
<p>(備考)当地区は、湿田が多く麦作や畑作物など裏作の振興が図れないこと、狭小の区画が点在しており、大型機械の導入が困難な状況であることから、令和3年度から農地基盤整備事業の実施が予定されている。そのため、これまでの話し合いにより、農業者の農地利用の意向確認が行われている。</p>	

2 対象地区の課題

<p>・農業従事者の高齢化が進行しているとともに、第2種兼業農家が多い地区である。 また、表作のみの耕作のため耕地の利用効率が悪く、さらに、農地の用排水機能低下による農作業時間のロスから営農経費が増加している。このような課題に対応するため、担い手の確保や農地基盤整備による効率的な農業経営を図る必要がある。</p>

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

<p>・農地利用は、中心経営体である認定農業者12経営体が全体の過半を担い、将来的には非担い手を中心とした農業法人の設立を目指す。これらの中心経営体を中心とした効率的で安定的な農業経営の実現を図り、地域農業の持続的発展を目指す。</p>
<p>・中心経営体への農地の集積、集約を図るため、農地基盤整備事業の実施により、乾田化による裏作の導入、施設維持管理の軽減等を図ることで、経営規模の拡大、農業経営の安定化を図る。</p>
<p>・東山代干拓土地改良区の組織強化を図り、農業機械の集約等による生産コストの低減や事務の効率化等により農業経営の安定化を図る。</p>

■集落における中心経営体

属性	農業者	現状		今後の農地の引受けの意向		
		経営作目	経営面積	経営作目	経営面積	農業を営む範囲
	中心経営体数 12	米	31.3ha	米・麦・大豆・園芸作物等	37.9ha	

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針(任意記載事項)

・農地の貸付け等の意向
貸付けの意向が確認された農地は、189筆、498,684㎡となっている。

・農地中間管理機構の活用方針
将来の経営農地の集約化を目指し、農地利用者は、出し手・受け手にかかわらず、原則として、農地を機構に貸し付け、機構を通じて中心経営体を中心とした貸付けを進めていく。

・基盤整備への取組方針
農業の生産効率の向上や農地集積・集約化を図るため、畦畔除去による農地の大区画化、暗渠排水などの基盤整備に取り組む。

・新規作物の導入方針
米・麦等の土地利用型作物以外に、収益性の高い玉葱などの園芸作物の生産などに取り組む。